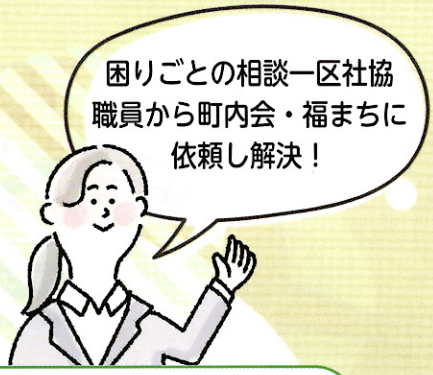


困りごとを抱えた世帯への 支援活動紹介



Vol.1 大型ゴミの支援（東白石地区）



昨年の５月頃でした。南郷通エリアのマンションにお住まいの高齢の方から困りごと解決の依頼が本会に寄せられました。内容は大型ゴミ（ソファ等）出しでした。区社協は取り急ぎ、東白石地区福祉のまち推進センターに相談をさせて頂きました。当地区福まちの取り次ぎにより早速、２名のボランティアの方々に快くご対応をいただくことが出来ました。おかげ様で、当日の活動は無事終了し、相談者からも感謝の声もありました。

ご協力を頂いた中嶋俊一さん（暁町内会防火防災部長※写真右）、堀江一義さん（同町内会第三区長※写真左）のお二人からお話しを頂きました。今回、お二人に共通していた内容をまとめて紹介します。

今回の活動のきっかけ

改まってボランティア活動を行ったという意識はあまりなかったですね。同じ町内会の会員として、困った時はお互い様というごく自然な思いです。元々、知っていた方であったということもあります。とにかく重たい物でしたから、とても高齢者が一人で運べるものではなく、何とかしなければという思いでした。

日々の取り組みで感じること

町内会役員でもあることから、日々、会員の皆さんからいろいろと相談を受けることが少なくありません。内容も色々ですが、とにかくお話しをじっくり聞く中で、解決につながることも少なくありません。町内会としては、日頃から心配と思えるような世帯に対する「さりげない」安否確認に力を入れています。

今後のメッセージ

お困りごとを抱えている方は、まずは、お気軽にご相談ください。
その上で、出来る範囲で、出来ることをお手伝いしたいと考えています。

Vol.2 日常のゴミ出し支援（菊水地区）



菊水上町連合町内会
蠣崎会長

菊水地区の菊水上町連合町内会にお住まいの外出が難しくなった方から、地域包括支援センターを通じて本会にゴミ出し支援の相談が寄せられました。

菊水上町連合町内会の蠣崎会長に相談したところ、快く相談者がお住まいの単位町内会の会長に相談してみるとお話しくださいました。その結果、近所に住む町内会長ご夫妻が日常的にゴミ出しの支援を続けている事例です。

依頼された方・支援している町内会長にお話しを伺いました

依頼者は長年、町内会役員として地域活動に携わってきた方で、町内会長や上町連町会長とも以前から面識があり、こうした既存のつながりが支援の土台となりました。めまいの症状から外に出ることが難しくなり、「近くのゴミ出しでも転倒してしまう」とのこと。何度もありがたいと話されていました。

会長は「お気になさらないで」と話してくださり、町内会でも一人暮らしの高齢者が多くなっており、できる範囲で気に掛ける姿勢を大切にしているとのことでした。身近な町内会で支え合いが続いています。